

地域社会との緊密な連携を築く

学校・家庭・地域との連携を深めるPTA活動を目指して

蟹江町立新蟹江小学校PTA

1 はじめに

本校は、明治6年に創立し、明治40年に町村廃合の結果、新蟹江尋常小学校として開設された。校区は、蟹江町の南に位置し、国道一号線と西尾張中央道が交差し、近鉄富吉駅を中心とした市街化の進んだ北の区域と、田畑の広がる南の区域とに大きく分かれている。児童数252、学級数14（通常学級11、特別支援学級3）、PTA会員数197の中規模校である。



【新蟹江小学校校舎】

2 研究への取組

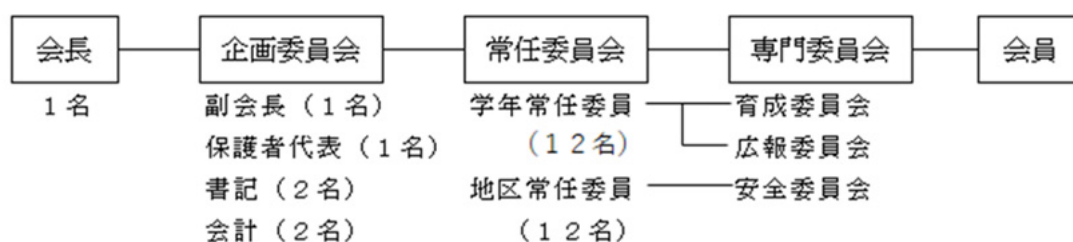
(1) 研究のねらい

全校児童数は減少傾向にある。15年前と比較すると半数となり、それに伴い、家庭数は児童数以上に減少している現状にある。家庭数の減少により、これまで可能であった活動を継続していくことが難しい状況にある。また、変化の激しい時代・多様化の進む社会において、共働き世帯、核家族世帯など多様な世帯だけでなく、生活様式・考え方も多様化し、PTA活動も社会の変化に対応していく必要に迫られている。

そこで、「子ども達の安心・安全を見守ること」、「笑顔あふれる新蟹江小学校にすること」を第一とし、持続可能なPTA活動を目指し、組織の見直しと各委員会活動の在り方・活動内容を見直し、家庭・学校・地域とが連携し、取り組んでいくこととした。

(2) PTA組織

本校のPTA組織は、本部役員7名、地区常任委員12名、学年常任委員12名の合計31名で構成している。各地区から選出された地区常任委員は安全委員会に所属し、各学年から選出された学年常任委員は広報委員会、育成委員会のどちらかに所属している。



【新蟹江小学校PTA組織図】

3 実践活動の概要

(1) 組織の見直し

児童数の減少に伴い、家庭数も減少している。そのため、令和3年度に学級常任委員2名を学年常任委員2名と半減させ、さらに、令和5年度は担当地区を併合し、地区常任委員を2名減じることとした。これにより、役員数55名であった組織は、本部役員7名、地区常任委員12名、学年常任委員12名の合計31名となった。

(2) 活動内容の見直し

組織の見直しを図ったものの、活動内容は前年度踏襲をしていた。そのため、役員一人にかかる仕事量が大きくなり、負担感も大きなものとなっていた。そこで、「子ども達を支える大人が笑顔で楽しく活動をしていれば、自然と子ども達は笑顔になり、何事も前向きに楽しく取り組める」と考え、活動内容の見直しを行うこととした。

① 広報委員会（発行回数の変更）

年間3回発行していたPTA広報紙を年間2回とした。さらに、会員にPTA役員の取り組みを身近に感じてもらったり、地域の方にPTA活動を知っていただいたりするためにwebページを活用し、活動内容を発信していくこととした。

年間2回の広報紙の発行については、1学期に「入学式・職員紹介」、3学期に「卒業生の紹介」とした。webページには、PTA役員として活動した内容を全て掲載するようにした。これにより、活動内容が明らかとなり、会員の協力を得やすくなった。

② 育成委員会（統廃合による新設）

ベルマーク回収日を設定し、家庭で集めたベルマークを封筒に入れ、子どもが廊下に置かれた回収かごへ回収日に提出する形で行っていた。回収したベルマークを、厚生委員が仕分け及び整理作業をしていた。役員数の減少に伴い、研修委員や本部役員もベルマークの仕分け作業を手伝う状況であった。そのため、厚生委員会と研修委員会を統合させ、育成委員会とし、活動を行うようにした。そうしても、役員が各家庭に持ち帰っての作業になってしまったため、持続可能な活動を目指し、令和5年度でベルマークの回収を終えることとした。

これにより、お楽しみ会の企画・運営に集中して取り組むことができるようになった。



【ベルマーク仕分け作業】

③ 安全委員会（定数の決定及び交通旗当番活動の見直し）

これまで、登校班の6年生の人数を規準に地区役員数を決めてい

た。しかし、児童数の減少に伴い、6年生が不在の班もあるようになった。そのため、これまでのように安全委員の人数を決めることが困難となってきた。そのため、担当する登校班を複数にし、定数を12名とした。さらに、会員が無理なく継続して活動することができるように、安全委員が当番表を作成し、当番制で毎日のように行っていた登校時の見守り活動(交通旗当番活動)の見直しを行い、地域の実情に応じて活動できるよう、会員、地域への共通理解をはかった。

(3) 子ども達の安心・安全を見守る活動

① 登校時の交通旗当番活動

登校時、交通量の多い場所や幅員の狭い場所などに会員が立ち、登校時の安全な歩行を呼びかけている。各地区、見守り隊や町内会と連携し、無理なく、継続して見守り活動ができるようにしている。

② 見守り隊との連携

本校には、登下校時の安全を見守ってくださる「新蟹っ子見守り隊」の方がいる。40名を超える方が見守り隊に所属している。常時、子ども達の登下校に付き添い、誰よりも危険



【見守り隊との打ち合わせ】

な場所や状況を把握している。その方々と情報を共有するため、年間2回、PTA本部役員、安全委員、学校職員、警察署や蟹江町の職員の方を交え、打ち合わせ会を行っている。

③ 顔見知りの関係をつくるあいさつ運動

毎月第1水曜日・木曜日に児童会が主催する「あいさつ運動」の日に合わせて、PTA役員を中心に校門や昇降口に立ち、登校する子ども達の様子を見守るとともに、挨拶の声をかけている。はじめは、役員だけで行



【あいさつ運動】

っていたが、持続可能な活動、誰もが参加しやすい活動を目指し、「集まれPTA会員さん」のチラシを作成し、会員にも活動を呼びかけた。すると、役員だけでなく出勤前の時間を活用して参加する会員も現れるようにな

った。また、はじめは挨拶の声の小さかった子どもたちであるが、回数を重ねると声が大きくなっていった。

④ P T A役員と有志によるお楽しみ活動

子どもも大人も笑顔あふれる学校を目指し、P T A役員が「お楽しみ会」の企画・運営を会員に呼びかけた。絵本の「読み聞かせ」「手品の披露」からはじまり、回を重ねるごとに、様々なアイデアが出され、「新聞ちぎり大会」「紙飛行機とばし」「大声大会」などを行った。好評であった「紙飛行機とばし」は同年度に2回実施した。どの企画も、たくさんの笑顔があふれていた。



【大声大会】

(5) 地域との連携

① 防災運動会

蟹江町は「水郷のまち」とも呼ばれ、町内に五つの川がながれている。新蟹江小学校区は二つの大きな川に囲まれている。小学校のグラウンドは川の水面よりも、低い位置にある。そのため、学区の町内会が主催し、毎年5月に「防災運動会」を行っている。P T A本部役員は、子ども達の危機意識を高めること、地域に愛着のある子ども達を育てることをねらい、町内会と連携して防災運動会の運営をしている。



【防災運動会の様子】

② 新かにえ夏まつり

毎年7月に町内会の主催による「新かにえ夏まつり」が行われている。多くの地域の方が参加し、子ども達も楽しみにしている地域の行事である。P T A本部役員は、放送・進行を担当し、地域との連携をはかっている。

4 おわりに

子どもたちの教育活動は、年間を通して、様々な場面で地域の方々に見守られ、支えられている。家庭数が減少したからP T A活動を行わないではなく、保護者としてP T Aとして、できる人ができることを行い、持続可能な活動を目指したいと考えている。